

家族看護コンサルテーションの実践知

家族ケア研究所 渡辺 裕子

1. コンサルテーションの目的

家族看護に関する知的な理解と意欲の向上の両者を含んだ「相談者のエンパワメント」

2. コンサルテーションのプロセス

< >内相談者の変化

1) 第1期：コンサルタントと相談者との関係を築く

- ①相談をもちかけることができた相手の力に心からの敬意を表し、安心感で相談者を包む
- ②相談者の問題意識、違和感を明確にし、コンサルテーションの課題を共有する

2) 第2期：現象の全体像を掴む

- ①相談者からさらに情報を引き出しながら家族の全体像を掴む。
- ②その家族を相談者がどのようにみているのか、家族の全体像と家族像とのズレがどこにあるのかを把握する。

3) 第3期：現象と相談者の認識のズレを埋める

- ①現象と相談者との認識のズレをどのように埋めていけばよいのか、そのプロセスを査定する。
- ②家族の言動の意味を問いかける、代弁する<自己認識の偏りに関する自己洞察>
- ③家族に関する新たな見方を提示する<新たな家族像の形成>
- ④行われた援助の意味を問いかける<援助方法の見直し>
- ⑤現実的で可能な援助方法の提案<援助者としての自信の再獲得>

4) 第4期：家族看護に関する動機づけ

- ①事例のテーマに関する投げかけ<家族看護に関するテーマの抽出>
- ②レベルアップした家族看護への動機づけ<家族看護に関する意欲の向上>

3. コンサルテーションに必要な要件

- 1) 相談者に対する敬意と信頼
- 2) コンサルタントの自己一致
- 3) 複眼的視野
- 4) 現象を立体的・構造的に把握する思考能力
- 5) 相談者の自己洞察を促す教育的配慮
- 6) 援助者としての豊かな経験
- 7) 事例のテーマを明らかにする研究的視点